

こども・若者が参加しやすい市政の推進に向けた取組について

多くの市民に市政に対する興味・関心をもってもらうとともに、市民等の意見をまちづくりに生かすため、令和7年度は以下の事業により、市民と理事者との意見交換や提案機会の充実に取り組んでいます。

名 称	日 程	時 間	会 場	参加人数
小学生オンライン交流会	令和7年 7月23日(水)	午前9時30分 ～午前11時30分	青梅市役所および各小学校	68人
多摩リハビリテーション学院との 意見交換会	令和7年 10月17日(金)	午後4時～午後5時	青梅市役所市長室	3人
青梅看護専門学校との意見交換会	令和7年 12月1日(月)	午後3時45分 ～午後4時45分	市立青梅総合医療センター	7人
高校生ミーティング	令和7年 12月16日(火)	午後3時～午後5時	青梅市役所 2階喫茶コーナー	11人
中学生オンライン交流会	令和7年 12月22日(月)	午後3時30分 ～午後4時30分	青梅市役所 8校および 中学校オンライン 2校	48人
大学生ミーティング	令和8年 2月27日(金)	午後3時～午後5時	青梅市役所 2階喫茶コーナー	20人(予定)

令和7年度 多摩リハビリテーション学院専門学校との意見交換会 報告書

- ・日時 令和7年10月17日（金）午後4時00分～午後5時00分
- ・会場 青梅市役所市長室
- ・参加者 多摩リハビリテーション学院専門学校：学生3名
青梅市：青梅市長、副市長、教育長、市立青梅総合医療センター院長
- ・提案内容 2～13ページ「青梅市で学ぶ学生の声」のとおり





Discover
OME

青梅市で学ぶ学生の声

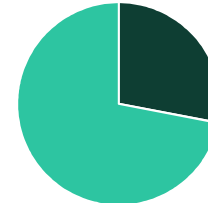
多摩リハビリテーション学院専門学校
言語聴覚学科1年

太田代一穂 小板橋菜優 本多未季

2

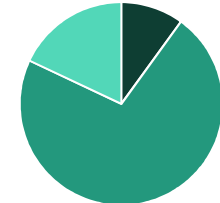
学生の居住状況

現在の居住地



青梅市内28% 青梅市外72%

入学前の居住地



市内10% 市外72% 海外18%

4



私たちの学校について

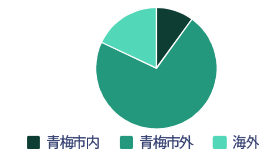
作業療法学科 1 理学療法学科 2
介護福祉学科 4 言語聴覚学科 3

4つの学科で医療・福祉分野のプロフェッショナルを育成しています。それぞれ異なる専門性を持ちながら、連携して学び合う環境が整っています。

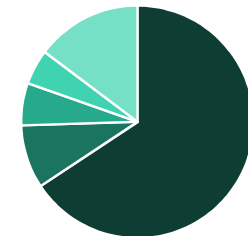
3

入学前の居住地の内訳

入学前の居住地



青梅市以外の居住地の内訳



東京都 埼玉県 神奈川県 山梨県 その他

5

アンケート調査の概要

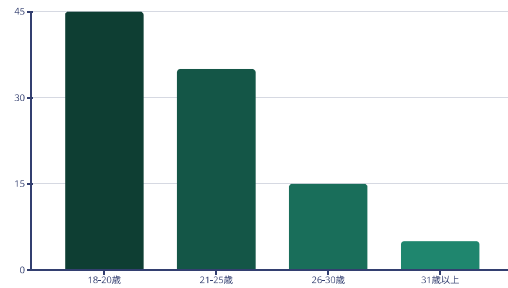
調査対象者の詳細

100

総回答者数

22.5

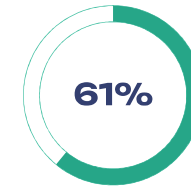
平均年齢



18-20歳 21-25歳 26-30歳 30歳以上

6

青梅市への要望



具体的な要望あり

学生からの前向きな提案

学習施設の整備

ショッピング施設の充実

レジャー施設の増設

歩道・交通の改善

8

青梅市で感じる不便さ



不便さを感じる

主な改善点として挙げた声

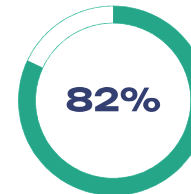
道路環境

学習・商業施設

交通の利便性

7

青梅市のここが好き！



好感を持っている

学生が愛する青梅市の魅力

豊富な自然環境

静かで落ち着いた雰囲気

温かい人々

9

青梅市で生活してみたいですか？



青梅市に住みたい
37.8%

検討中
46.7%

10

市立青梅総合医療センター との連携について

学生の願い

- 実習生の受け入れ
- 専門講義の機会
- 勉強会の参加



12

学生寮設置のご提案

通学時間の負担

経済的な負担

留学生の住居確保

学生寮設置のメリット

1
青梅市への愛着向上

2
地域活性化

3
国際交流の促進



11

未来を一緒につくっていきましょう



ありがとうございました

13

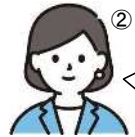
令和7年度 青梅看護専門学校との意見交換会

- ・日時 令和7年12月1日(月)午後3時45分~午後4時45分
- ・会場 市立青梅総合医療センター
- ・参加者 東京都立青梅看護専門学校：学生7名
青梅市：青梅市長、副市長、教育長、市立青梅総合医療センター院長

主な意見



① 青梅市は高齢化率32%で、今後、さらに高齢化が進み、患者の数が増え在宅での医療に移行していったときに、看護師不足や現在の医療体制で高齢者を支えていくことができるのか不安があります。また、地域包括支援センターが充実しているところは良いところですが、少子化の影響で高齢者を支える人の不足とそれに伴い福祉サービスが継続できるのか不安です。生まれ育った青梅で看護師として働けることをうれしく思っています。多くのニーズの中で役に立てることは、自分にとってとてもやりがいに繋がることだと思います。

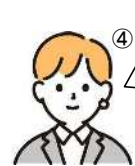


② 青梅市は医療機関や子育て支援、高齢者へのサポートも充実していて、生涯を通して安心して暮らしていける地域だという印象を持っています。高齢化が進む中でさらなる体制強化や連携が重要と考えています。これから青梅市で働くにあたって、思いやりを持ってチームで協力する姿勢を大切にしながら、患者様の尊厳に寄り添い、丁寧で質の高いケアを提供していきたいです。また、地域社会の現状に積極的に目を向けながら、利用したい、働きたいと思ってもらえるような地域医療福祉の発展に貢献したいです。



③ 青梅市は自然豊かでありながら高齢化が進む地域であり、医療福祉の充実が今後ますます重要になっていくと思います。特に医療、福祉、行政が連携した支援体制の強化や救急医療の確保、在宅医療の充実、独居高齢者への見守り支援など生活に寄り添った取り組みは地域全体の安心感に繋がると考えています。これから青梅市で働くにあたり、相手の立場に寄り添う姿勢を大切にし、丁寧なコミュニケーションで患者様に寄り添いたいです。学び続けながら地域の安心と健康に貢献し、よりよい地域づくりを目指したいです。

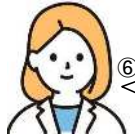
令和7年度 東京都立青梅看護専門学校との意見交換会 報告書



④ 青梅市の地域医療における大きな強みは、西多摩地域唯一の三次救急対応の救命救急センターを持つ市立青梅総合医療センターの存在だと思います。また、高齢化率が高いため、医療・介護・福祉が一体となって支援しており、地域包括ケアシステムが進んでいるのが強みです。しかし、医療従事者の人手不足や通院在宅支援が課題であり、ICTを活用したオンライン診療や住民同士の支え合いの仕組みを強化する必要があります。祖父を在宅で看取ったとき、病院とステーションとの連携がスムーズで安心して看取ることができました。今後、看護師として働く上で、地域での支援にも貢献していきたいです。青梅市が医療と福祉をつなぐ取り組みをさらに進め、若い世代の医療従事者が地域に関わりやすい環境を整えていくことで、地域全体の健康づくりがより充実すると思います。



⑤ 青梅市でこれから医療者として働く、また子育て世帯としての視点から、シフト勤務の家庭への支援が必要だと感じます。病院勤務のように土日祝日関係なく働く職種では、こどもの預け先の確保が悩みです。特に小学生になると預け先が減ってしまうのを感じています。また、学童保育の無償化や補助制度の拡充を検討してほしいです。実習に伴う予防接種の自己負担について、若者支援として市の助成制度があるとうれしいです。さらに、ACP(※)の重要性を実感しており、例えば人工呼吸器をつけたら外せないことを知らないという方も多いので、地域包括支援センターの方が高齢者を訪問するときに伝えたり、地域住民が気軽に話せる場をつくれるといいと思います。



⑥ ACPについて、いきなり病院に運ばれてからだちょっと遅いと思います。普段から市民と関わるのは、市の方や地域包括支援センターの方が多いと思うので、データを市で集めておいて、いざ病院に来たときに、市と医療が連携を取って、すぐに情報が取れたりとか、そういうのがあったりすると、連携がスムーズにいくのかなと思います。



⑦ ACPについて、気軽にカフェみたいな感じで話し合えるような場所、情報をもらえる場所があるといいかなと思います。

※ACP・・・アドバンス・ケア・プランニング(Advance Care Planning)の略称で、もしものときのために、自身が望む医療やケアについて前もって考え、ご家族や医療・ケアチームなどと繰り返し話し合い、共有する取り組みのこと。

令和7年度 東京都立青梅看護専門学校との意見交換会 報告書



⑧ 実習を通じ、多職種連携による地域包括ケアの重要性を学びました。今後は、地域の特徴やその人の生活背景を理解して、その価値観や思いに寄り添った看護を実践していきたいと考えています。さらに、多職種と協働しながら地域に根ざした支援ができる看護師を目指します。具体的には保健所や地域包括支援センターの健康教室、予防活動への参加、公共交通課題の話し合いへの参加を通して、高齢者が安心して暮らし、外出できる環境づくりに貢献し、地域全体の健康を支える一員になっていきたいです。



⑨ 青梅市は産科や助産院不足の課題があります。実習を通じて、切れ目のない子育て支援を継続していくことが大切だと学びました。産後ケアなどの支援が整っていてもSOSを出せない人が多くいると感じます。例えば市立青梅総合医療センターがすごく忙しい印象を受けていて、患者さんが相談しやすい環境づくりの難しさを感じました。患者様が安心して声を上げられる環境をつくるため、地域と医療者が協力しながら、1人ひとりに寄り添った看護を実現することが重要だと思います。



⑩ ACPの話しにくさを解消し家庭内での話を促すため、市役所などの市の施設や、駅前、憩いの場になっていそうなカフェなどで情報発信し、自然とその情報が入ってくる環境になるとよいと思いました。また、青梅市は自然が豊かで、東京まで直通で行くことができ、青梅でしか満たせないニーズがあると思います。そういったところを発信し、移住希望者や自然の中で暮らしたい若い世代や子育て世代を取り込むことで、少子高齢化が改善に向かっていくと考えました。



⑪ 看護師の理想の働き方としてちょっとぽっと浮かんだのが、すごい残業が多くてなかなか帰れないという状況は、看護師の仕事に就きにくい理由なので、人材確保とかすごく難しいと思うんですけど、どうしたら残業が減るのかと思います。

令和7年度 東京都立青梅看護専門学校との意見交換会 報告書



⑫ 青梅駅西部では公共交通機関の本数減少により、通勤通学等の方の電車の待ち時間が多く、アクセスの悪さから移住を促す要因になっている可能性があるため、公共交通機関の本数を増やすことやほかの打開策となるような工夫をしていただきたいと思います。また、最近クマが街中に出没し獣害が増えており、人々の安全を守るために青梅市の具体的な策を検討してほしいです。



⑬ 青梅市は自然が豊かで落ち着いた環境や歴史・文化が残っていて、地域に愛着を持つ人が多いところも地域コミュニティの強さにつながっていると感じています。妊娠前から子育て期までの切れ目のない支援や保育園の副食費の無償化などは保護者の負担軽減に繋がり、若い世代の定住や将来にわたる持続可能なまちづくりに不可欠な取り組みだと思います。一方で、地域間の生活利便性の格差など地域の活気が失われつつあることも課題だと捉えています。SNSでの発信や地域イベントなどを通して、世代を超えた交流の場を増やすことで地域全体の活性化にも繋がると感じます。



⑭ 看護学校や多摩リハビリテーション学院の学生が、青梅市の健康づくり事業や福祉活動、ACPについて学生の立場から関わって市民の方と一緒に学び合える場をつくることで、行政と学校、地域住民が協力しながら、住みたい・働きたい・支え合いたいと思えるようなまちづくりが進んでいくのではないかと感じました。



⑮ シフト勤務における有給取得について、独身の方は休み理由を言い出しづらく、育児中の人との差が生じるため、上司が有給取得を統一的に促進することで、全員が休みを取りやすい雰囲気をつくらせたいと思います。看護師の業務負担軽減のため、胃ろう準備を栄養士が担う、検査出しでスタッフが迎えに来るなどの工夫をすることで、看護師が患者様と関わる時間を増やせると考えました。



⑩ 青梅市は自然と市立青梅総合医療センターという医療の中核がある安心感が大きい街だと感じています。市外の学生という立場から日常生活の快適さという点で、公共交通の不便さと若い世代を呼び込む魅力不足が課題と考えます。公共交通では、特に高齢者や車を持たない市民の方の外出の壁をなくすことが重要で、バス路線や運行時間の改善に加え、デマンド交通やアプリや電話の予約で簡単に利用できる仕組みなど新たな移動手段の導入の検討をお願いしたいです。若い世代の定住促進には、都心に負けないような独自の教育支援やリモートワーク支援などを強化し、青梅に住みたい、働きたいと思える具体的な施策をアピールすべきだと考えます。



⑪ 青梅市のことを知らない方や、青梅市に住んでいない方にも伝わるように、若い世代はホームページを見ることがあまりないので、青梅市に住んでいる方しか知らない情報をInstagramなどのSNSで発信していくとよいと思います。



⑫ ACPについて、スーパーマーケットの掲示物では必要な人しか見ないと思います。年代別にどんな支援があるかもわからなくて、調べることができない、調べようとしていない方が市役所に行ったときに、職員の方には、看護のように寄り添いながら具体的な支援内容や窓口を強く案内することをお願いしたいです。業務的に言われると「行かなくてもいいかな」と思う方も行動すると思います。





高校生ミーティング実施状況



テーマ：未来の青梅市について

A班意見

室内施設をつくる、自然を活かした活動、幅広い世代が楽しむことのできる

SNS発信 "カラフル!!どこをとっても映える!!"

レンタサイクル ネットで囲まれた広い空間

かつバリアフリー 芸人・コンサート ダンス大会

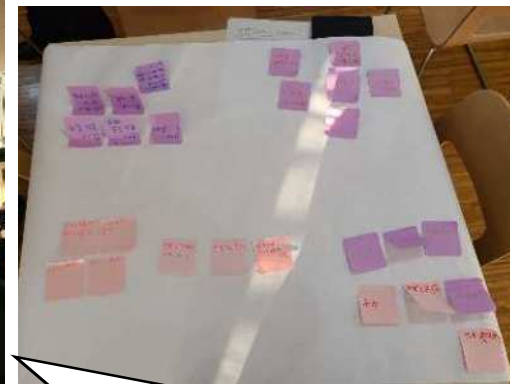
レストラン "カフェと休けい所梅や桜の庭園"

ピクニックカフェ 古本屋、古着屋、リサイクルショップ

アスレチック トランポリン 映画館

紅葉ライトアップ ロングロング滑り台 バスケットコート 芝生

水遊びができるもの川の近くに公園がある→川がきれいだから



B班意見

バスPR活動 ビオトープ 球技ができるコート

たま川 自然と共存 お寺

サッカー バスケット

都会と田舎のハイブリット 豊かな自然

親子づれ 子ども向けの公園

親子連れが来やすい公園

ボールを自由に使える公園!! 手つかずの公園

レトロなまち サイクリング道路 SNSで発信

新しい物との共存

Tik Tok インスタ

LooP 広い道 自転車

子どもが安心して暮らせる 便利な公共交通機関

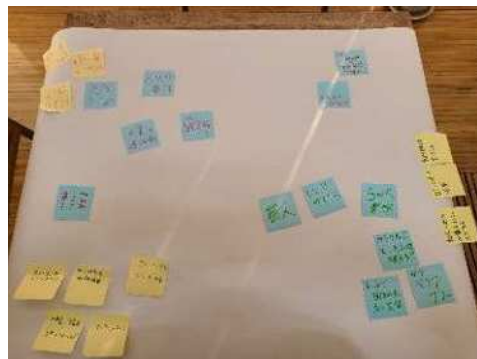
熊が出ない安全な街

都心の学校に通いやすい

レトロな街を活かして

幅広い世代の人が使える公園

桜・紅葉がきれいにあって"景色を見に来る"という目的の人もいる





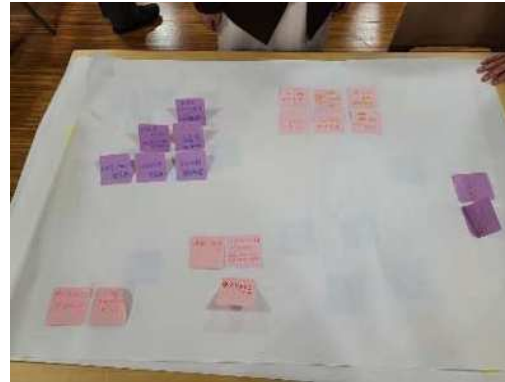
高校生ミーティング実施状況



テーマ：こども・若者の居場所について

A班意見

他校交流掲示板 充電機
 夜 開放してバルコニーで星が見られる
 トランプ オセロ ソファ Wi-Fi テレビ コンセント
 ケーキ パソコン 自販機 飲み物 ウォーターサーバー
 交流コーナー マンガ おかし 音楽 防音
 キレイ空間 だがし フリーコンピューター パソコン
 市から毎月1つ若者へ質問 教え合いスペース他校との関わり
 ドリンクコーナー プロジェクター 談話ができる空間
 高校からのバス(市役所まで) 学習ができる空間
 市と市民の意見交換ができる場所
 防音空間 しばふ(外)(外のみ22:00まで)
 ”イルミネーション きせつのそうじょく”
 交流コーナー(掲示板)



B班意見

週1回程度読みきかせ
 自習室22時まで！
 甲子園パブリックビューイング
 自販機軽食つき自習室
 500円(ワンコイン)でおかしのふくろプレゼント
 ハロウィン、クリスマスなどイベントのパーティー
 軽食 食べれるのは良いかも... いざかや
 学校付近にお店(だがし屋)
 時間 昼12時～(22時)(18時)(20時)時間分ける...?
 定期イベント 大型ビジョン(パブリックビューイング)
 送迎・巡環バス ”シーズンイベント等小さなもよおし
 おかしつかみとりや手持ち花火大会など”
 ゆっくりできるソファ 外にもスペースがあるといいかも
 キッチンカー 土日で一日中入れる！！



令和7年度高校生ミーティング報告書

1 目的

将来を担う高校生が、それぞれのテーマについて、他校の高校生との意見交換・交流を通じて、市政運営に対し興味・関心をもってもらうとともに、高校生の声を市政運営に反映させることを目的として開催した。

2 内容

- (1) 日時
令和7年12月16日(火)
午後3時00分から午後5時00分
- (2) 会場
青梅市役所2階喫茶コーナー
- (3) 参加校
ア 都立多摩高校 4名
イ 日本航空高校石川(東京青梅キャンパス) 7名

※都立青梅総合高校も参加予定であったが、インフルエンザ流行による学年閉鎖等のため辞退。

3 実施形式

ワークショップ

- (1) テーマ
ア 未来の青梅市について
イ こども・若者の居場所について
- (2) 実施方法
各学校が交流する形で6～7人ごとの2グループに分かれて、それぞれのグループに市長および教育長が参加。一定の時間でメンバーを入れ替え、なるべく多くの学生同士が交流できるよう実施した。

4 実施結果

- (1) 未来の青梅市について
自然を生かした活動、様々な商業施設・店舗があり、コンサートやダンス大会などのイベントで幅広い世代が楽しめ、賑わいを創出しているまちになってほしい。また、きれいな川の近くに公園があり、川遊びもできるなど、青梅市の環境を生かしたのもや、ボールを自由に使える公園、ネットで囲まれた広い空間など高校生の目線で「青梅市がこうあったらよい」という意見が多数出た。
- (2) こども・若者の居場所について
Wi-Fi、充電器、コンセントおよび自動販売機などの設備や他校と交流するための掲示板や交流コーナー、自習スペースやどのくらいの時間まで解放されているかなど実際にあったら利用したい居場所空間についての意見が出た。

以上

中学生オンライン交流会

令和7年度中学生オンライン交流会報告書

1 目的

青梅市の将来を担う子どもたちが、それぞれのテーマについて他校との意見交換・交流を通じて、市政運営に対し、興味・関心をもってもらうとともに、子どもたちの声を市政運営に反映させることを目的として開催した。

2 日時

令和7年12月22日（月）

午後3時30分から午後4時30分まで

3 会場

各学校間と市役所で実施

（対面とオンラインのハイブリット開催）

4 参加生徒

中学校10校（東中学校除く） 48名

対面 8校、オンライン 2校

5 実施概要

(1) 当日スケジュール

15:30	開会	2分
15:32	説明・注意事項	3分
15:35	グループごとに意見交換	40分
16:15	発表（各グループ2分以内）	10分
16:25	市長・教育長講評	5分
16:30	閉会	2分

(2) 当日の役割分担

全体司会…第三中学校

開会挨拶…吹上中学校

閉会挨拶…西中学校

グループリーダー・発表…「7 テーマ」の網掛けの学校

6 実施方法

対面とオンラインのハイブリットによる交流とし、「7 テーマ」のグループに分かれ、事前に各校で話し合ってきたワークシートをもとに意見交換を行った。グループで話し合ったことを全体で発表した。

7 テーマ

テーマ	中学校	
みんなが通いやすい、より良い学校にするために	グループA	第七中、霞台中、新町中、泉中
	グループB	第一中、第三中、第六中
	グループC	第二中、西中、吹上中
子どもが幸せなまちについて	グループD	第三中、西中、第七中、泉中
	グループE	第二中、第六中、新町中
	グループF	第一中、霞台中、吹上中

8 発表内容

(1) 「みんなが通いやすい、より良い学校にするために」

グループA

私たちのグループが考える「みんなが通いやすい、より良い学校」とは、

- ・無理に交流しなくても良い雰囲気がある。
 - ・安心して学べる環境がある。
 - ・お互いに認め合うことができる。
 - ・みんながまわりのことを信用でき協力的な環境がある。
 - ・不登校生徒がいない。
 - ・全校生徒が挨拶ができて元気に登校ができる。
- という学校です。

このように思った理由は、

- ・交流が苦手な人も居心地が悪くないように、今日教室に来なくても毎日通えることが大切。
- ・学校はみんなが楽しいと思える場所であるといい。

- ・不登校生徒は、何かしら抱えているものがあるのでそれが一つでも解消されたい。
- ・人目を気にせず気遣いも要らないスペースがあるといい。という理由が挙げられました。

このような学校になるためにどんなことを行えばよいかは、

- ・悩みを相談できる大人がいる事が大切。
 - ・カウンセラーが週一と少ないので来る回数を増やしてもらう。
 - ・図書館では、静かな学習環境にも限度があるので、高校にあるように個人で学習できる自習スペースを空き教室などに設置してほしい。
 - ・グリーンリボン活動を通していじめについてより深く考える。
 - ・プラスアルファで新たなイベントの企画や運営を行う。
 - ・中央委員会などで意見交換を行い、いじめについて考える。
 - ・挨拶運動に対して新たな取組を考えていく。
 - ・別室登校ができるような環境をつくり、そのうえできちんと学習ができる環境をつくる。
 - ・毎日振り返りの時間をつくり、各班で良い点や改善点を教え合う。
 - ・各学校で連携し学校ルールの改正やいじめゼロに向け新たな取組を考える。
 - ・市役所にアンケートを設置し、地域の方々から中学生の良いところや直してほしいところを書いてもらい、それをもとに生徒会内で今後自分たちがどのような取組をしたら良いか考える。
- という意見が出ました。

グループB

私たちのグループで出た学校像は、生徒会が生徒の意見を聴き入れる学校です。なぜこのように思ったかというと、生

徒の意見を取り入れることによって、友達との仲や先生と生徒の関係が良くなると思ったからです。

生徒の意見を聴き入れるために、生徒が誰でも意見が出せるような意見箱をつくることを考えました。意見箱だと投票しにくいので「お悩み相談ボックス」などのくだけた名前にすることによって気軽に意見を入れてもらうことができると思います。意見箱だけでなくGoogleフォームなどを使用して意見をたくさん聴き入れることが重要だと考えました。

そして、学校をきれいにする事も大事だと考えたので、保健委員会で学校の使い方を説明することで、きれいにできると考えました。

青梅市にやってほしいことは、他校との交流を増やしてほしいと考えました。理由としては、自分の学校だけでなく、他校の委員会などを取り入れることによって学校をよりよくしていくことができると思います。

グループC

みんなが通いやすい学校にするために、

- ・設備に関してのルール、改善点を話し合える学校。
 - ・挨拶を自らできる学校。
 - ・清潔な環境づくりができていいる学校。
- 等が挙がりました。

清潔な環境づくりや誰でも「学校が過ごしやすい」と思えるように、市で清掃用具を充実させてほしいとの意見が出ました。また、みんなが校則を守り安心して生活をするために市内の学校が集まり、各学校の課題を話し合う場を設けてほしいとの意見が出ました。

(2) 「こどもが幸せなまちについて」

グループD

意見を交換した後に、こどもたちがみんなで幸せであるために何が大切なのか話し合いました。

共通して見られたのは、安全であり安心できる場所であることが一番大切だということでした。安心できる場所に

ついてよく考えたのですが、その中で出てきたのは、自然やいろいろな年代の人と触れ合える場所があればいいという意見が出ました。

自然の意見では、公園などで自然と触れ合うのではなく、自然を見たり聞いたり等体験できる場所があればいいのではないかという意見でした。

また、いろいろな年代の人との触れ合える場所では、保育園生とその両親などいろいろな年代が触れ合える場所があればいいという意見でした。

グループE

まず、大切なことは、

- ・青梅は自然が多く気軽に行き来できるところ。
- ・お金がかからず勉強もできる児童館等があること。
- ・こども食堂では青梅産の野菜を使う。
- ・大人や地域の人に頼ることも大事。

という意見を踏まえ、まとめでは、

- ・児童館や廃校をリニューアルして楽しめる場所をつくる。
- ・こども食堂や児童館にはお金がかからないのでフリーカフェや勉強できる場所を導入する。

という意見が出ました。

グループF

「安心できる場所はどんなところか。ホッとする時間はいつか」という質問に対して出た意見では、家や学校、図書館等の公共施設。時間では、友達と過ごしている時間や逆に1人で過ごしている時間などが挙げられました。

なぜそのように思ったかについては、家などは信頼できる人ということや周りを気にせず自分1人の時間が確保できるから、また、友達と過ごしている時間については、友達といると安心するや楽しいとの意見が出ました。

「青梅市にどんなこどもの居場所があったら幸せか」の質問については、勉強に集中できる場所や年代問わず時間を気にせずに過ごせる場所、自然と触れ合える場所と交流

できる場を両立した施設などの意見が出ました。また、1人で過ごせる時間については、図書館のほかに個室などのスペースを作ってもらえたらいいなという意見が出ました。

9 学校アンケート

(1) アンケート回収状況

全体	24名
生徒	18名
教職員	6名

(2) 「令和7年度 中学生オンライン交流会」の取組はいかがでしたか。

とてもいい	14名
よい	8名
あまりよくない	2名
よくない	0名

(3) その理由を教えてください。

ア 生徒

- ・他校と交流することにより自分の学校の取組をより良くしていけると考えているから今回のオンライン交流会は良かったなと思いました。また、青梅市を各学校の代表生徒でより良い市にしていく取組を考える機会があることによりどんな人でも青梅市はいい市だと思ってもらえるようになって行くなと思いました。
- ・他の中学校で行っている取組を知るきっかけがくれたから。
- ・他校の方々がどのように思っているのか、自分が気づかなかったことなどに気付けるから。
- ・今までと違い対面でだったので、より話し合いがスムーズに行うことができました。
- ・色々な学校の意見を互いに知ることができたからです。
- ・青梅市内の中学校と色々な意見を交換できてよかったからです。
- ・他の学校との交流もあり、知らない人でも仲良くできたか

らです。

- ・各校の代表として、それぞれの思いつかなかった意見交換ができてよかった。
- ・オンラインではなく対面での実施だったので、より円滑に会話することができ、表情なども見やすかったから。
- ・様々な学校と交流ができて有意義な時間にできたから。
- ・同じゴールを目指していても、そこに至るまでの取組が異なる学校が大半だったので、自分の学校を向上させていくための考え方を得られたから。
- ・他校の取組等について知ることができ参考になりました。
- ・普段自分が考えないようなことをしっかりとじっくり考えることができました。また、そのことに対して他の意見を聞いて考えを深めることができました。
- ・初対面でしたがしっかりと意見を出し合い高め合うことができたから。
- ・各学校で行っている活動を知れたことで自分たちが通っている学校にも、取り入れられるようなものがあったから。
- ・直接会って会議することでより活発にできていたと思う。
- ・オンラインで、言ってる内容が聞きづらかった。あと、意見が出しづらかった。話してる人の顔を見れなかった。
- ・あまり交流がない人との意見交換ができるいい機会だったので良いのですが、僕も含めてですが、全員定型文のような回答しかできなかったなあ、と会議が終わったあとだったのでそう回答しました。また直接会議するのが醍醐味なのに来れなかった学校がいたのも改善すべきだと思います。

イ 教職員

- ・各学校の代表として相応しい意見の数々に感心しました。本校の生徒もオンラインでの参加でしたが、積極的にメモをし自分たちの学校に生かそうとする様子が見られ嬉しく思いました。
- ・対面で出来たことが生徒にとっても貴重な経験になった。
- ・各校の代表が集まり、交流することで横のつながりをつく

ることができる。代表生徒たちの取組やリーダーならではの悩みを共有できるのは、本人たちにとって心強い。

- ・活発に意見が出てレベルの高い交流会であったと思う。一方で、全ての学校で対面形式にて実施することで、より議論が深まると感じたから。

(4) 自由意見

ア 生徒

- ・もう少し長い時間を設け、さらに話し合いを深めていきたい。
- ・何組かオンラインのところがあったので、音声聞こえない時があったりしました。次からは全学校対面で行ってほしいです。
- ・こういった交流の場は初めてだったので、とてもいい経験になりました。
- ・とても緊張しましたがグループごとにいたリーダーがまとめて話を進めてくれたおかげでスムーズに話し合いが進んで良かったです。
- ・いろいろ意見交換できてよかったです。これからの生徒会での活動に話し合った内容を取り入れてみたいです。
- ・みんながわかりやすいような質問の仕方、返答で話し合いを進められていたから、考えがより深まったし、また反省するべきな点も分かったので良かったです。
- ・去年は、全校がオンラインで、面と向かって意見を交わす機会が他校となかったのが、対面して意見交換できたことが、色々な刺激になって、良かった。

イ 教職員

- ・オンラインで参加させていただきました。グループで意見交換をする際に、他グループの音声が入ってしまい、自分たちのグループの内容が聞き取りにくくなってしまったので、環境に配慮していただけると助かります。
- ・対面で今回のようにやれると良いと思います。